

# 地名の由来と史跡と文化財



(湿津・市東地区編)

## 市原の歴史を知る会

(ふるさと市原をつなぐ連絡会会員)

令和2年 8月編集・製作



## まえがき

人類は、今から700万年前にアフリカ大陸でサル類（チンパンジー）から枝分かれして「二足歩行の人類」となった。その後徐々に進化し約10万年前に一部の人類がアフリカを出ていくつかの人種に変化し大陸に住み着きました。

旧石器時代（先土器時代・無土器時代）～紀元前1万4千年前頃、我が国にも大陸から渡り来て住み着いたと思われます。その頃の日本列島はユーラシア大陸と地続きであり、彼らはマンモスやナウマン象、大角鹿などの大型動物を追いかけて日本列島にやってきた。食料調達には、主に狩猟や採取を行い、石を打ち砕いて造られた打製石器を使用した。食器などはなかった。

縄文時代（1万2千年～2千5百年前頃）になると、私たちの住みます房総半島にもいくつかの大規模な集落が出来てきました。そして弥生時代になると大陸から稲作が持ち込まれ、肥沃な土地では稲作が行われるようになり、権力者による統治が始まった頃と思われます。その中で、大変興味深い説があります。縄文時代の頃に、日本列島に太平洋南方より現ポリネシア語（マオリ語）を話す民族が渡来し、住み着いた人たちが初めて地名を付けたという説です。それらの古い時代に付けられた今とあまり変わらない発音で、今も多く使われています。その中でも「古事記」や「日本書紀」などの古典や日本語の中にも、多くの現ポリネシア語源の言葉を見ることができますが、文字で表すものはありませんでした。

しかし弥生時代になると朝鮮半島より渡来した人により漢字が伝わって来て、今まで言葉で伝えられていた呼び方に、適当な漢字を当てはめたものです。例えば、日本の象徴の山「富士山」は、マオリ語では「フチ（HUTI）「引き上げられた山、または釣り上げられた山」という意味となります。そして、浅間神社は熊野神社と並び最古の部類の神社と思われますが、富士山の神を祀る「式内富知（ふち）神社」が最も古い神社と思われます。

縄文時代には、争いごとは少なかったと言われていいますが、水稻耕作が始まった弥生時代になると「定住民」が増えることにより、土地の利権争いが起き、古くから住んでいた縄文人は弥生人に圧倒されることになった。但し、古くからあった地名すべてが「現ポリネシア語（マオリ語）」という訳ではありません。



北海道には「アイヌ民族」のアイヌ語があり、沖縄には「琉球民族」が話す「琉球語」が存在する。また、それぞれの地方には「方言」があり、その地方特有の言葉があります。

参考ですが、古来より「サ」が付いた名には「神様」に関係したものが多く見られます。

例えば、神社の敷地内は「境内（ケイダイ）」という聖域と一般の地を分ける「さかいめ」があり、神様が山から「さと（里）」に下ってくる道を「さか（坂）」と言います。また、祀りの際の神様の貴賓席を「さじき」と呼び、庶民は地面の芝に座ったので「芝居」という言葉が生まれたと言われている。

今回は、上総国市原郡内の北東部に位置します「湿津・市東地区」の地名の由来と、その地にある史跡や文化財などを紹介します。

## 市原郡内の湿津・市東地区の地名の由来

### 千葉県地名の由来

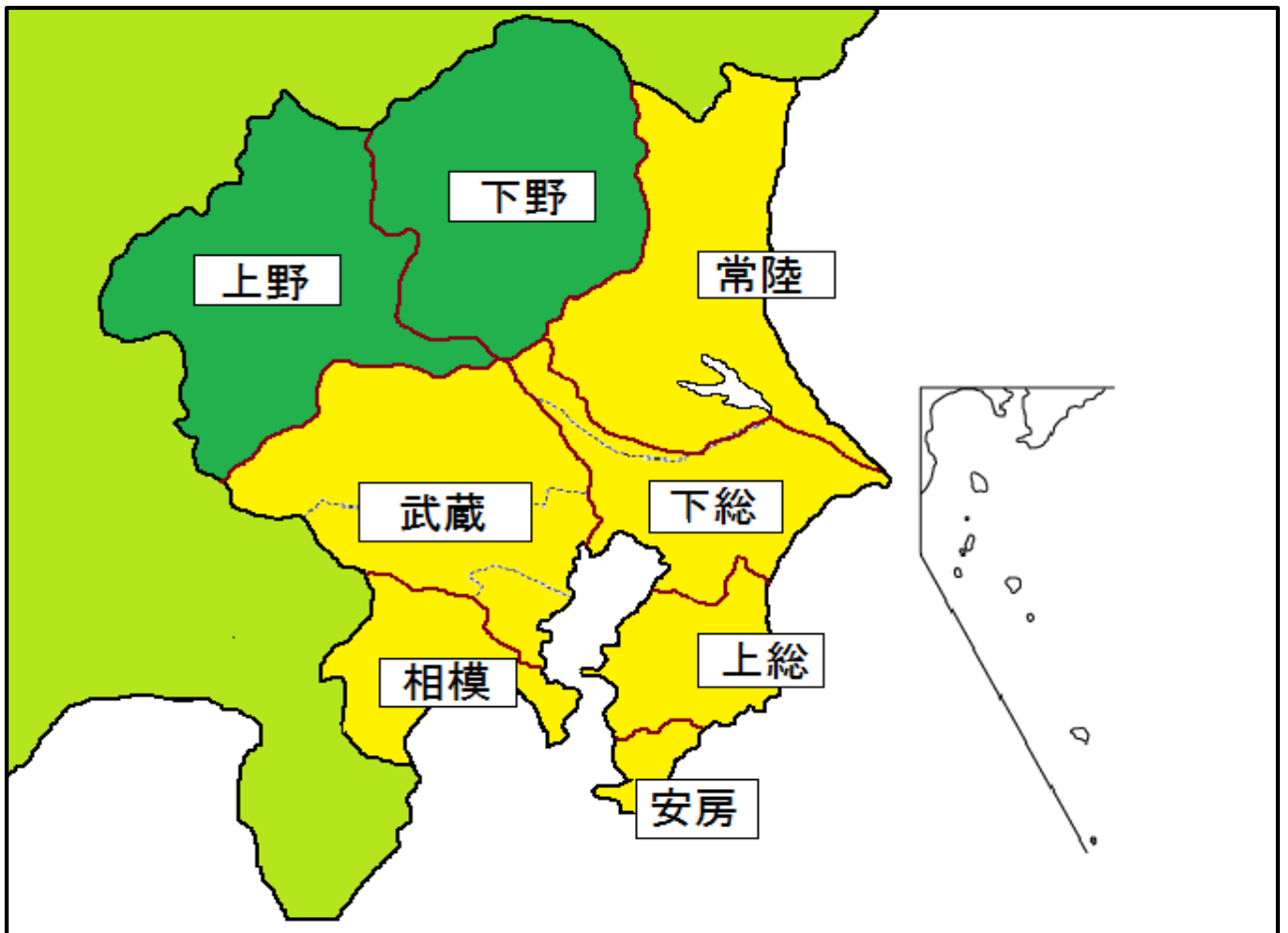
千葉県は江戸期までは総国（ふさのくに）と呼ばれており、茨城県南西部の一部と埼玉県東部の一部も含まれていました。この地域は7世紀後半の令制国の建置により、上総国と下総国が成立しその後養老2年（718年）に上総国から4郡が分かれ安房国が誕生した。

「総」の語源は、「古語拾遺」によると、「天富命（あまとみのみこと）」が安房国から齊部氏を率いて東上し、麻を植えたところ、良い麻が生えたので、総（麻）の国としたという説と、「風土記逸分」によると「総」とは木の枝を言い、昔この国に大きな数百丈のクスの木が生えていたが、大凶事との占いが出たので切り倒したところ、南に倒れたので、上の枝を「上総」と言い、下の枝を「下総」と言ったと記されているが、いずれも根拠が弱く、他にも「塞ぐ」からで「山などが周囲にある土地」や「ふし」の転訛で「高い所」の意味する説などがあるが、現在では朝廷の都に近いほうが上であり「上総」と付けられたという説が正しいと考えられる。

なお、「ふさ」はマオリ語で「フ・タ」で、「浸食された丘陵がある地域」の転訛と訳します。

「和名抄」に、下総国相馬郡布佐（ふさ）郷があり、現我孫子市東端の布佐の地域と思われる。上総国には、市原（国府所在地）・海上・畔蒜（あびる）・望陀（ぼうだ）・周淮（すえ）・天羽・夷隅・埴生・長柄・山辺・武射の11郡がある。

下総国には、葛飾・千葉・印旛・埴生・匝瑳・海上・香取・相馬・猿島（さしま）・結城・豊田の11郡が、安房国には、平群（へぐり）安房・朝夷（あさひな）・長狭の4郡で国造りがされた。市原郡は「伊知波良」と書き、中世には市西郡と市東郡に別れ、山田郡も郡域内にあったと思われます。国府の所在郡でもあり郡内には、海部（あま）郷・市原郷・湿津郷・江田郷・菊麻郷・山田郷の6郷があった。江戸期には、このほかに、海北郷・佐是郷など、旧海上郡域も併合された。



# 地区・大字区画図 (暫定版)

ふるさと市原をつなぐ連絡会  
2018/10/1





市東・湿津郷内の地名の由来 ※アンダーライン部は、マオリ語での表現を日本語に転訛したもの。

- 犬成 (いぬなり)
  - ・史跡 犬成城 ・犬成向山城
  - ・神社、仏閣 犬成神社 安立寺 (日蓮宗)

江戸期は犬成村

地名の由来は、寺院の境内を意味する「院内」の転訛という説があるが、狭小な地形に由来するとも言う。そのほか神皇と称した「平将門」が行幸したことから「院内 (いんなり) と称され、それが転訛して「犬成」となったという説もある。

「いぬ (痛)・く (処)・なる (緩傾斜地)」の転訛で、崩壊した緩傾斜地を指したものの。

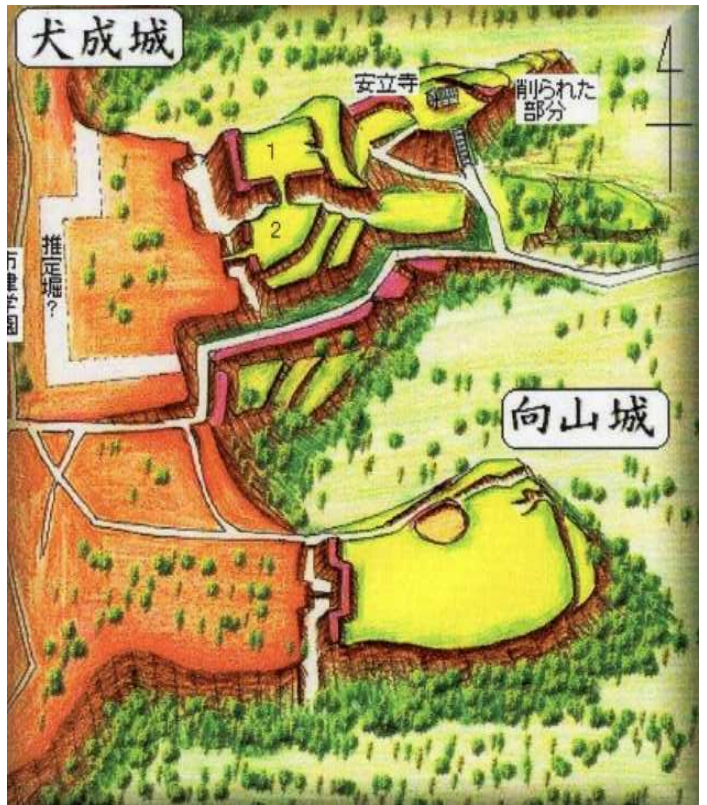
犬成城 所在地 市原市犬成湯武倉

築城時期 戦国期の長享年間頃

築城主 酒井 定隆 (土気城主)

犬成城跡は、市津学園の東側の畑の奥にある。西側には安立寺がある。

明確に城郭遺構として認められるのは、南北に並んだ二つの郭です。1郭は長軸40mほどの広さであり、さほど大きくはありません。台地続きの西側と2郭側とに堀を入れ、土塁は高く盛り上げて分断をしている。西側の土塁は、郭内からでも3m以上の高さがある。堀切は、台地基部との間では7mほどの深さがある。また東南部では、東の台地下に向かって堀底が下がっているので先端付近ではかなり深いものとなっている。1郭の南側には堀を隔てて一回り小さいが2郭がある。この2郭も同様に台地基部との間に堀切と土塁を配置しているが、堀、土塁とも1郭より小規模なことや、2郭が1郭より小さいことから、この2郭は馬出しとも思われる。2郭には腰曲輪も着いている。



ラフ図上部にある安立寺のある平坦部やその周辺の小規模な削平地も郭と思われるが、後世に造られたものかも知れないが、東側の尾根筋の緩やかな平坦部を加工するのは防御面からしても自然と思うので、城域内と考えられる。

また「千葉県所在中世城館跡分布詳細報告書」によると、2郭の西側に3郭と、点線で堀の跡を書き入れている。これは「この規模の城郭であったらここに堀を入れるであろう」という推測によるものであり、実際にあったかは不明です。



← 2郭と西側の土塁

主郭の土橋 →







土橋左側の空堀



主郭南側の土塁



主郭北西側の土塁と切岸部

妙印山 安立寺(みょういんざんあんりつじ)日蓮宗)

所在地 市原市犬成610番地

創建時期 寛文2年(1662年)の創立。

開山は明徳3年(1392年)2月。

住職 古都辺の光福寺の住職が代務

説明 当初は、真言宗のお寺でしたが  
土気城主酒井定隆の改宗令(七里  
法華)により日蓮宗に改宗された。



安立寺の本堂

向山城 所在地 市原市犬成向山

築城時期 戦国期後期

築城主 不明

犬成城と同様に東側に延びた台地を掘り切って区画して造られたもので、台地基部との間には相横矢を入れた堀がはっきり残っている。しかし、「市原の城」ではここは城跡ではないのではないかと推定している。その理由としては、「先端部が自然の地形のままで、相横矢の土塁の中央部に虎口の切れ目がないこと」などが上げられ、「近世の牧の関連遺構ではないか」と思われるという説もある。

しかし、現存する堀を見ると複雑に折れ曲がり、どう見ても城郭遺構と思われれます。

向山城は何らかの理由で急造されたが、完成を見ずに終わった城と思われれます。

また、「向山」という地名について見ると「向山」は明らかに犬成城の向かいということ意識した命名ですが、敵が取り立てた向城を示すのか、犬成城を支援するための向かいの城なのかは不明ですが、地形から見て支援する城と考えるのが妥当と思われれます。



向山城の堀切。明確な横矢が見られる  
左右が飛び出している相横矢がある



同じ堀を中央部から見た所。  
深さ4m、幅6m程ある。



犬成神社 (通称 山王様)

所在地 市原市犬成713番地

創建年代 不明

勧請 近江の国 日吉大神より勧請

祭神 大山咋命 (おおやまぐいのみこと)

神主 小田 千里

例祭・神事 ・ オビシャ

- ・ 春季例祭： 4月3日 神主、9組長氏子代表により、田畑の耕作、種まきを前にして、その年の五穀豊穰と家内安全、無病息災を祈念する。
- ・ 秋季例祭： 10月17日 神前に米や野菜、お神酒、自然の物、魚類等を備え、その年の豊作に感謝を捧げ、併せて家内安全、無病息災を願う。
- ・ 神輿を担ぎ 以前は神輿を担いで町内を練り歩いたが、近年は担ぎ手の不足で行っていない。



本殿に続く参道。前方に鳥居



瓦葺寄棟造りの拝殿



嘉永7年に奉納された狛犬



天明7年9月に奉納された石標



天明7年鳥海加嘉右衛門の銘がある燈籠



享和元年奉納された手水石

- 潤井戸 (うるいど) 史跡 潤井戸遺跡・潤井戸古墳群 (別紙資料参照)・潤井戸陣屋  
神社・仏閣 潤井戸白幡神社・光福寺 (日蓮宗)・泰行寺 (顕本法華宗)

江戸期は潤井戸村。【和妙抄】の湿津の遺称と考えられる。

地名の由来は、「うるい (湿)・つ (津)」で、湧泉地を指すもので「つ」が「と (処)」に転訛したものと考えられる。当地の南の水神谷から、豊かな清く澄んだ地下水が湧き出していたことに由来する。

### 白幡神社 (通称 しらはた様)

所在地 市原市潤井戸 684 番地

創建年代 元和 5 年 (1620 年) に永井信濃守尚政が、誉田別尊を潤井戸に奉遷した。

祭神 誉田別尊 (ほんだわけのみこと)

神主 小田 千里

由緒・伝説 昭和 55 年建立の「白幡神社改築記念碑」に記された由緒、伝説によると、宇留比豆は名類聚抄(めいりゅうしやう)に市原郡湿津村承平年中 源 順(みなもとのしたごう)の編著倭地(へんちよやまとち)に鎮座す。創祀は第 29 代欽明天皇の御代に邇り誉田別尊を祀る。初め宮山に勧請せられしも、元和 5 年永井信濃守尚政が潤井戸において一万国下錫さるに及び現在の地に奉遷し改築す。かつては白幡大明神と仰ぎしも、明治元年 3 月白幡神社と改称。

例祭・神事 初詣の祈禱 : 1 月元旦

春季例祭 : 4 月 3 日 氏子役員が参拝し、神主のお祓いを受け、農耕の段取りを決め、日取りを話し合う。

大祓い : 6 月 30 日 名越の祓い。その年の半分を過ぎ、それ迄付いた邪神を払ってもらい、残る半年の幸と開運、豊作、厄除け等を祈念する。

秋季例祭 : 10 月 13 日、神前に米、野菜、魚、お神酒、果物などを供え、その年の豊作に感謝を捧げ、併せて家内安全無病息災を祈念する。神輿の渡御。

七五三の祝い : 11 月 15 日、3 歳 5 歳 7 歳の男の子、7 歳の女の子が神前に参拝し無事の成長を祈る。



入口の鳥居、階段を上がると本殿がある。



元和 5 年に奉遷された本殿。昭和 55 年に改築。



大正 11 年亥奉納された花崗岩製の狛犬阿像



神社の改築記念碑。  
この裏側に、由緒伝説が彫られている。





**泰行寺**      顕本法華宗  
**所在地**    市原市潤井戸 647 番地  
**住職**        丹野 章二氏  
**創建時期**   不明ですが、天正 4 年（1576 年）と記された手水石があり。



参道の間にある山門



泰行寺の本堂、時代の経過で柱など傷みを感じる



本堂を左側から望む



本堂正面の入り口

**潤土山 光福寺**    日蓮宗  
**所在地**        市原市潤井戸 1915 番地  
**住職**        山本 隆真氏  
**創建時期**    延徳 2 年（1490 年）

光福寺は、今より 530 年前の延徳 2 年（西暦 1490 年）に開創された。  
 同時期には室町幕府 8 代将軍足利義政が逝去されたと記録されている。  
 日蓮宗本山の茂原藻原寺の末寺として、街道の宿場町の潤井戸の地に建立された。  
 開山は、本山藻原寺第 10 世日傳上人。永正 7 年（1510 年）8 月 18 日に遷化。室町幕府  
 10 代将軍足利義植（よしたね）の時代です。  
 前本堂は老朽化により、令和元年 11 月 16 日に新本堂が完成し、落成法要を行った。



建て替え前の本堂



令和元年に落成した本堂



新本堂を正面右側より撮影



天明元年に建てられた記念碑

## 潤井戸地区古墳遺跡について

潤井戸地区には、縄文時代から弥生、古墳、奈良、平安時代までの密度の高い古墳や遺跡がある。代表的な遺跡には、潤井戸遺跡群鎌之助地区や、潤井戸天王台古墳、杉山古墳などがあります。古墳群については、やまと時代から平安期前期頃までこの地域を支配していた菊間国造一族のものと思われる。ここでは代表的な遺跡と古墳を紹介します。

### ・潤井戸遺跡群・鎌之助遺跡

市原市北部村田川中流の左岸に位置し、標高17mから20mのロームの赤土がある低位段丘面に立地しています。数度の発掘調査によって、縄文時代から奈良平安時代までの複合遺跡と判明した。村田川を2kmほど下ると同じ立地上に、弥生時代の環濠集落として知られる「潤井戸西山遺跡」があり、また、対岸のちはら台地区にも草刈遺跡と草刈古墳群がある。

市原市域の古墳時代中期前半の集落は、主に低地に立地し、台地を背後にして相対的に一段低い微高地に営まれる傾向がある。また、背後の台地にはその集落母体からの古墳群が占有することが多いと思われる。鎌之助地区の発掘調査では、古墳中期の村が検出されているので、これに対応する墓域が近くにあると思われる。

古墳時代中期前半（5世紀前半）は、関東地方の和泉（いずみ）式を含め、東北から九州まで非常に良く似た土器が造られており、近畿地方を中心に政治的、祭祀的規範が非常に強くなった反映と思われます。鎌之助地区の古墳中期の竪穴式住居の穴から、まとめて出土した土器（和泉式、高杯、小型壺など）も儀式などの何かの目的で意図的に遺されたものと思われる。



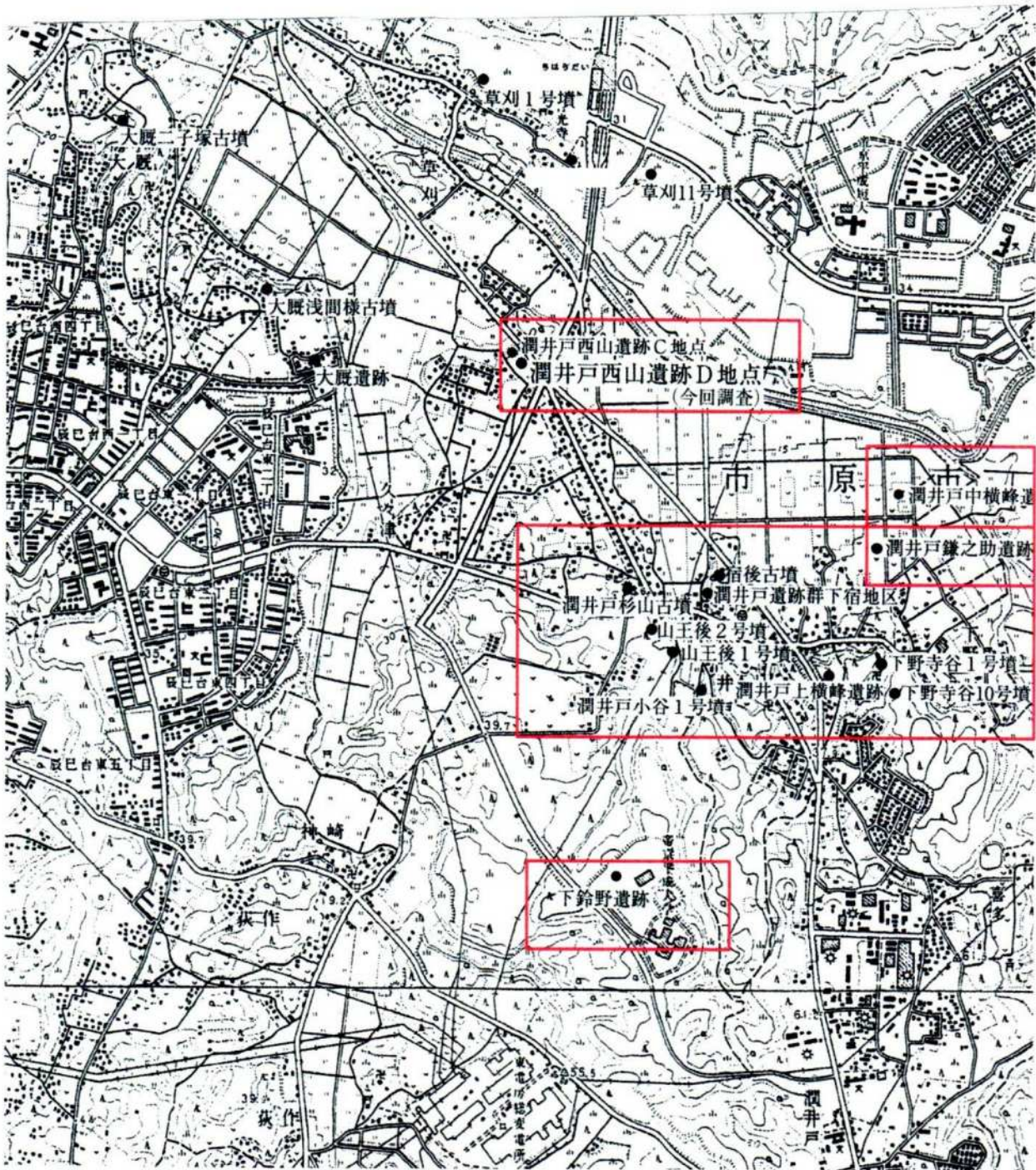
発掘調査中の潤井戸遺跡群鎌之助地区



古墳中期の竪穴住居から出土した土器類



# 市東・湿津地域の古墳遺跡分布図



- |           |            |              |
|-----------|------------|--------------|
| ● 潤井戸西山遺跡 | ● 潤井戸中横峰遺跡 | ● 潤井戸鎌之助遺跡   |
| ● 潤井戸杉山古墳 | ● 宿後古墳     | ● 潤井戸遺跡群下宿地区 |
| ● 山王後2号墳  | ● 潤井戸上横峰遺跡 | ● 山王後1号墳     |
|           | ● 下野寺谷10墳  | ● 下鈴野遺跡      |

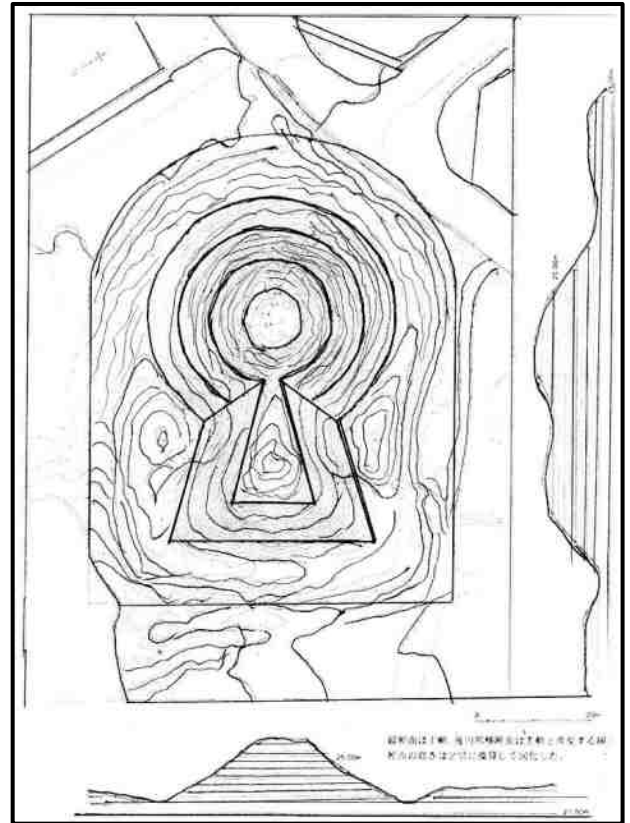


## 潤井戸天王台古墳群

潤井戸天皇台古墳群は、古墳時代前期から後期にかけて築造された古墳群で、天王台の高台の標高22m～35mにかけて位置します。これまで29基の古墳（長径10m～25m）が南北方向に650m程の範囲に集中して築造されています。ほとんどが円墳ですが、平成9年に道路建設に先駆けてその一部が調査され、前期の方墳2基（1基は前方後円墳の可能性）と円墳1基、後期の円墳3基が確認されました。古墳の保存状態は、中世の塚に改変されていた1基のほかは良好で、29墳からは、乳文鏡・勾玉・直刀・管玉・ガラス玉・耳環など多くの副葬品が出土している。乳文鏡は中国の鏡を手本に日本で作られたもので、6世紀の古墳から出土することが多い。



潤井戸山王台古墳の発掘跡



潤井戸杉山古墳の墳丘の復元図

## 潤井戸杉山古墳

潤井戸杉山古墳は、市原市北部の村田川の支流が作った支谷の入り口付近に所在する「前方後円墳」です。近隣の円墳2基と合わせて潤井戸杉山古墳群を構成しています。市原市埋蔵文化財分布地図では「潤井戸杉山1号墳」となりますが、これまでは潤井戸杉山古墳で紹介されることが多いようです。1999年に千葉県史料研究財団考古部会が県内の主要古墳の測量調査を実施する前には、この古墳の知見は、全長60m程度の前方後円墳であり、村田川中流域の前方後円墳では規模が一回り大きいということぐらいでした。

この測量調査の結果、墳形が詳細になり、墳丘長56.5m、後円部径40m、前方部先端幅33.6m、前方部長19.7m、周溝外縁主軸長76.5m、周溝外縁前端部幅33.6m、溝平均上端幅10mが計測された。墳形は、前方部に対して後円部がやや大きいスタイルの前方後円墳で、周溝は眉形であること、後円部高が前方部高よりわずかに高いこと、埴輪が認められないことがわかりましたが、埋葬施設の位置や構造は不明です。

## 潤井戸陣屋 所在地 市原市潤井戸字殿台

潤井戸陣屋は、山木から茂原方面に向かう道と、県道五井本納線とが交差する三叉路のすぐ南にあった。この辺りは比高10mほど低い台地上の「神崎入り口」のバス停のすぐ南西ですが、陣屋跡は山林化していて、遺構などの存在状況はよく分からない。この陣屋は、永井直政が元和5年（1620年）に上総国に1万5千石となって築いたもので、寛永2年（1625年）に古河城に移ってからは廃止された。



大作（おおさく） 文化財・神社仏閣 大作神社・ 法行寺（日蓮宗）・市指定文化財 薬師如来坐像

江戸期は、大作村。

地名の由来は、「おお（美称）・さく（狭い処）」で、狭い谷を指したものの。

### 大作神社（通称 日吉様（ひよしさま）

所在地 市原市大作 323 番地

祭神 大山咋命（おおやまぐいのみこと）

宮司 小田 千里

由緒・伝説 近江の国滋賀県に鎮座する日吉大社の御分霊を遷祀する。創建時期は不明。

祭神・神事 秋季例祭（秋マチ）・10月17日

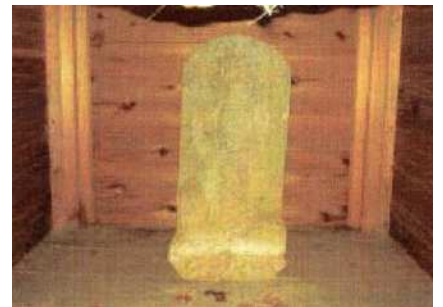
神前に氏子総代、町会役員、頭屋等が参列し、神官の祝詞奏上、氏子代表による玉串奉奠が行われ、新穀に感謝し、家内安全、無病息災を祈願する。



平成 19 年に建て替えられた銅版葺き入母屋造の拝殿。



平成 19 年に竣工した神代杉の両部鳥居と 20 段の階段



子安神社の中に安置されている子供をし抱いた子安様



二十三夜大月天子の宝祖神



天満宮の祠



左は山の神、右は日の宮

### 薬師山 法行寺（日蓮宗）

所在地 市原市大作 242 番

住職 草刈にある法行寺住職が代務

創建時期 元和 5 年（1619 年）3 月に日議上人によって開かれる。  
寛文 3 年（1633 年）2 月に開基年とする説もある。

往時、他宗より日什門流寺院に改宗



- ※ 当地の古刹寺院にて市原市指定文化財の木造薬師如来坐像（檜材で寄木造、90cm）を安置する。
- ※ 寺伝によるとこの木造は、大雨が続き大洪水が起きた折、大作の宮の方から金色に輝きながら流れ来たと言われている。特に、この薬師如来は、眼病平癒の仏様として、地域の人々をはじめ、遠くの方達の信仰を集めていた。お堂には、病氣平癒を願った人々が、無事に目が見えるようになったことで、大願成就の御礼旗や絵馬が奉納されている。



法行寺の本堂



薬師如来座像が安置されている薬師堂（台風による倒壊前）

荻作（おぎさく） 史跡、文化財 荻作館跡  
 神社・仏閣 荻作神社・満光院（新義真言宗）

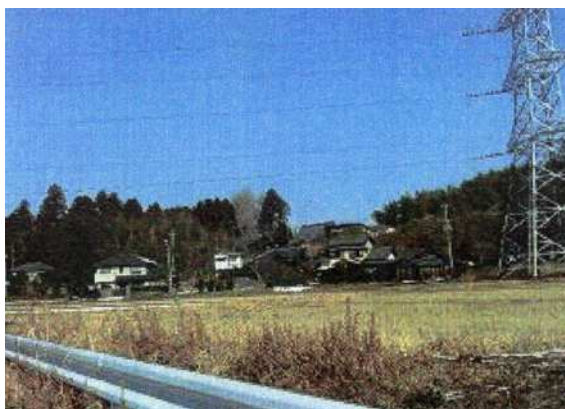
江戸区は荻作村。荻野作村ともいう。

地名の由来は、「うぎ（崩壊地形）・さく（狭処）」の転訛で、崩れた狭い土地」という意味。

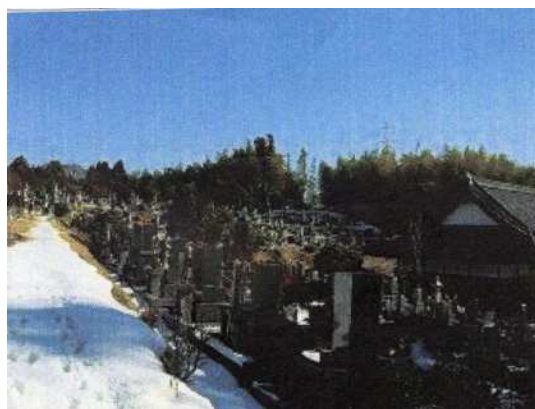
荻作館

所在地 市原市荻作小字御館前)  
 建築主 地元の領主の館と思われるが、不明  
 建築時期 戦国期より前と思われる。

説明 荻作にある満光院や荻作神社の辺りを「御館前（おたちまえ）」と言い、その地名から中世の館が築かれていたと思われる。満光院のある台地は、水田に面した比高10m程のもので、谷戸地形になっており、その周囲を幅広く尾根が取り囲んでいる。尾根の上は幅も結構広く、一面に墓地が造成されているため、遺構らしいものは見当たらない。しかし、谷戸状の地形からして、寺院のある処が館跡と思われる。それは、上総には谷戸式の城館が多く存在しており、荻作館も同じと考えるのが自然です。



南側から見た、荻作館のある台地



満光院と周囲の墓地になっている尾根。



荻作神社 (おぎさくじんじゃ) (大雀大明神)

所在地 市原市荻作 265 番地

祭神 大雀命 (おおささぎのみこと)・中将實方朝臣 (ちゅうじょうさねたかあそん)

宮司 小田 千里

創建 延宝 4 年 (1676 年) に本殿が築かれた。

由緒・伝説 旧領主の崇敬厚く、御祈願所としていた。大雀大明神の旧社号を明治 27 年 12 月に現在の荻作神社に改称した。

例祭・神事 ・春季例祭 4 月 3 日に氏子役員が参拝し、神官にお祓いをして貰い、農耕の段取りを決め、日取りを話し合いう。

・宮薙ぎ 7 月 15 日に新穀 (大麦) で焦がし粉を作って神前に供え、冬作の実りに感謝を捧げる。

・秋季例祭 10 月 17 日の前後の休日に、神前に米や野菜、お神酒、魚等を供え、その年の豊作に感謝を捧げ、併せて家内安全・無病息災を願う。氏子役員で参拝し、神官の祝詞奏上、氏子代表の玉串奉奠をする。



銅板葺き神明造りの拝殿



延宝 4 年に築かれた銅板葺き流造りの本殿



奉納年不明の鳥居



摂社・清滝大権現と愛宕山大権現



嘉永 7 年奉納の旧狛犬吽造 (左) と旧狛犬阿像 (右) (みかん彫り)



光明山 満光院 歓喜寺 (まんこういん かんきじ) 新義真言宗

所在地 市原市荻作 279 番地

住職 平出 淳道

創建年代 平安時代に創建されている古刹

本尊 不詳

説明 天明の大飢饉の時に上総国市原郡八十八か所霊場の 2 番所となっています。

満光院の本堂







参道の途中にある山門と石段



古さを感じる山門の柱と木組み



本堂手前右側の鐘楼と釣り鐘

押沼 (おしぬま) 史跡・文化財 押沼城  
 神社・仏閣 押沼神社

古くは鷺沼と書いていた。江戸期は鷺沼村。志藤(市東郡の意味)を冠称していた時期もあり、志藤七か村の一つ。

地名の由来は、水田の大部分がかつては沼であり、またオシドリが遊泳し道行く人を楽しませたことに由来するという。「おし(決壊)・ぬま(湿地)」で、地滑りまたは洪水のあった湿地という意味。

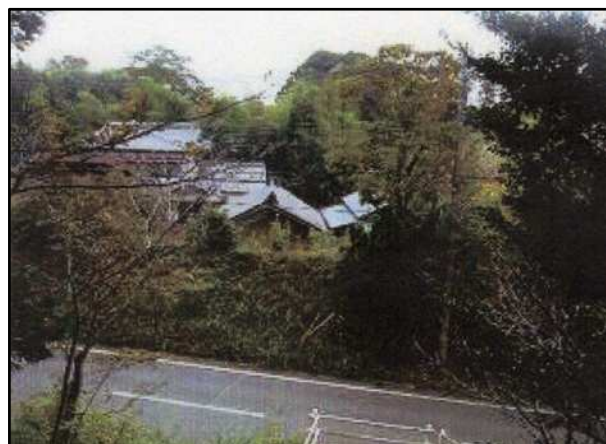
### 押沼城

所在地 市原市押沼

築城時期 戦国期の長享年間と思われる

城主 土気城主 酒井氏の家臣の三橋家の居城と思われる。

説明 押沼城は、県道沿いの牛沼神社の北側にあったと言われます。神社の辺りから北側に入った所が「城の内」と呼ばれているので、ここが1郭のあった所と思われる。県道わきには、土塁を伴った民家があり、ここも3の鞍部を挟んで、やや高い地形になる。連郭式に3郭ほどが並んだ形式となる。



押沼神社から2の郭南側の土塁を見た所

### 押沼神社

所在地 市原市押沼 236 番地 (字城の内)

祭神 大和武命 (まろたけるのみこと)

宮司 小田 千里

創建時期 不明



由緒・伝来 明治六年に火災により本殿及び拝殿、神社記録等を焼失。そのため創建時期などは不明。  
現在の社殿は明治6年に改築されたもの。  
享保二十年（1735年）の再建宮殿の棟札がある。

例祭・神事

元旦  
オビシャ 1月の第3日曜日  
春祭り 7月第1日曜日  
宮薙ぎ 7月第2日曜日  
秋祭り 10月13日  
七五三祝い 12月



押沼神社の本殿



鳥居とその奥の本殿



本殿の内部に内宮と天神社が安置されている



本殿前の狛犬の吽像と阿像



嘉永3年に奉納された手水石



享保二十年奉再建宮殿の棟札

小田部 (おだっぺ) 史跡・文化財 小田部館  
神社・仏閣 熊野神社・宝泉院 (新義真言宗)

江戸期は、小田部村。古くは小田辺と書き、田の辺に集落が所在したことに由来する。  
地名の由来は、「おだ (砂地)・べ (辺)」の転訛で、砂地の周辺という意味。

小田部館

所在地 市原市小田部小字殿ノ谷・打越

築城時期 戦国期以前と思われる。

築城主 不明ですが、地元小領主の居館と思われる。

説明 小田部の宝泉院の近くに「殿ノ谷」といい、中世の城館があったと思われます。宝泉院のある所は、谷戸地形の最奥部に当たり、谷戸式城館が置かれそうな場所です。宝泉院の西側に隣接し

て広い削平地もあり、ここに館が建てられていたと思われる。宝泉院の背後には、かなり古い五輪塔の残欠などもあって、これも中世城館があった可能性を証明する一つです。寺院の背後の台地の斜面は、高さ10mほどの切岸状の地形になっており、ある程度人工的に削っているように見えるので、これも城館に伴って施された加工と思われます。台地上にかなり広い畑となっているが、その道の上り口は切通の虎口城になっているが、防御上この道はないほうが良いので、これは後世に造られたものと思われる。上総地方には谷戸式の城館跡が非常に多いので、残っている地名からも館跡と思われる。この谷戸の北側は、熊野神社のある、地勢が高く非常に急峻な尾根となっている。神社のある場所は眺望も良く、ここに見張り台などを置いたのではないかと思います。



下から見た熊野神社のある高台



宝泉院の背後に上る道。堀切に見える。

## 熊野神社

所在地 市原市小田部 351 番地

創建時期 不明

祭神 伊邪那美命（いざなみのみこと）・速玉男命（はやたまおのみこと）・市原市史等には、さらに泉津事解男命（よもつことさかおのみこと）も祭神とされている。

宮司 小田 千里

由緒・伝説 和銅4年（711年）鳥来りて神妙を題すにより、紀伊の国に座す熊野神社の御分霊を乞い奉遷すという。

例祭・神事 オビシャ 1月20日 神前にて氏子一同参拝し、神主による祝詞奏上、氏子代表による玉串奉奠が行われたのち、オビシャの神事が行われる。この神社でのオビシャは、奉書紙に3本足の黒い鳥を書き、丸く50cmの的に造り、それに、椿で弓、竹で矢を二張作って、的に鳥を射落とす厄除けの迎春行事。2本足の鳥は正常な鳥であり、熊野神社のお使いでもあるという。3本足の鳥は災害や不幸をもたらすという。以前は、境内で行っていたが、現在は階段下の鳥居の前で行われる。



春祈禱 立春が過ぎて2月中旬の初寅に近い前後の休日に行う。

風鎮祭（風祭り） 現在は8月末から9月上旬の二百十日前後の休日に行う神事で、自然災害、特に風静め、台風除けを願う。宮司が祝詞奏上を21回唱えるに合わせ、氏子達も輪唱するこの地域の特有行事。

秋季例祭 10月19日 神前に米や野菜、餅、お神酒、魚類を供え、その年の豊作と自然の恵みに感謝を捧げ、合わせて家内安全・無病息災を祈念する。



熊野神社の鳥居と階段の参道



熊野神社の瓦葺きの本殿。



鳥居の右手前にある石碑



以前より使われていた手水石



中央の2基は摂社、刻印無し  
両端は火袋がない御神燈籠



寛政10年奉納の子安神社

西光山 宝泉寺（さいこうざん ほうせんじ）（真義真言宗）

所在地 市原市小田部357番地

住職 平出 淳道（荻作の満光院の住職が兼務）

創建時期 不明

本尊 不詳

由緒・伝説 不詳



境内に置かれている  
弘法大師の石像



宝泉寺の本堂。今年の台風で被害も



本堂の入り口には西光山の額



勝間 (かつま) 史跡・文化財 勝間館  
 神社・仏閣 日枝神社 ・ 龍性院 (新義真言宗)

勝馬とも書く。鎌倉期は勝間郷、江戸期は勝間村。足利貞氏は当郷をその被官人、倉持新左衛門尉家行に安堵し、倉持氏相伝の所領だった。

地名の由来は、平将門に敵対する人がこの地にて、将門に勝つように願いを込めて「勝将 (かつまさ) と付けたのが「勝馬 (かつま)」となり、「勝間」となったという。

「かつ (崩壊地形)・ま (場所)」で、崖のある地という意味。



勝馬城 ・ 館 (かつまやかた)

所在地 市原市勝間字綱城、北屋敷山、西源氏山

築城時期 不明

築城主 不明

説明 うぐいすラインと桑山堰との間に比高30mほどの台地が

勝間館の跡と言われている。写真の脇にある民家の奥辺りから、拳がってゆく道がある。

日枝神社 (日吉様 (ひよしさま))

所在地 市原市勝間387番地

祭神 大山祇命 (おおやまつみのみこと)

宮司 小田 千里

創建時期 承平7年 (936年) 12月に勧請

由緒・伝説 神社記によると、第61代朱雀天皇の御代、

承平7年 (936年) 12月申日に勧請。

山岳を選んで祭祀。



日枝神社拜殿正面

例祭・神事

春季例祭 4月3日 日枝神社の祭礼であると共に、脇宮である大六天のお祭りでもあり、この日は特に女性の参詣者が多かったという。しかし、昭和40年以降は行われなくなった。

春季例祭 秋マチは10月17日 神前に氏子総代、町会役員、頭屋等が参列し、神官の祝詞奏上、続いて氏子代表による玉串奉奠が行われ、新穀に感謝し、家内安全・無病息災の祈願が行われる。

おみくじ神事 1年間の神社の役 (頭屋) を決めるために、神官がおみくじを引き神様の意を伺いながら決めるおみくじ神事。



拜殿右側から本殿を望む



朱塗り両部の鳥居の先に石段



境内に向かう直下の80段の石段





大六天より遷座した子安神社



天保2年建立の狛犬



拝殿に安置されている神輿

※ 本殿は銅版葺き一間社流れ造り・拝殿は向拝唐破風造屋根衛破風懸魚造・拝殿銅版葺き入母屋造り  
幣殿は、銅版葺き入り妻造りとなっている。

勝動山 龍性院 吉祥寺 新義真言宗

所在地 市原市勝間889番地

住職 平出 淳道

創建時期 文禄3年(1594年)の検地帳に  
歓行院(後の龍性院)の名がある。

本尊 不詳



平成27年に大改修された本堂

説明

中世の古文書に勝馬郷と記述残る市原市勝間に、古くから地域の信仰の支えになってきた新義真言宗勝動山龍性院吉祥寺がある。江戸後期に再建されたと伝えられる龍性院は、定期的に補修して来たが、傷みがひどくなり平成27年11月に大改修を行った。新たな本堂は、半永久的に使える銅版の屋根と卍模様の鬼瓦、外壁の取り付け、耐震のために土台から補修が行われた。境内も入り口の急こう配の外階段を御影石にし、崩れそうな急斜面に会った30体の石造物を移動した。龍性院の総本山は、和歌山県の根来寺で、住職は荻作にある満光院の住職が兼務。龍性院では今も定期的に男性の「太子講」や、女性が集まる講、町会行事などが開かれ、住民を繋いでいる。



龍性院に向かう石段(平成27年)



宝篋印塔と移設された石仏群



入り口の案内石塔



神崎 (かんざき) 神社・仏閣 稲荷神社 真浄寺 (日蓮宗)

江戸期は、神崎村、地名の由来は、「かみ (噛み)・さき (岬)」で、崩壊した山の先端を指したものの。

### 稲荷神社

所在地 市原市神崎732番地

祭神 宇迦之御魂命 (うがのみたまのみこと)

宮司 小田 千里

由緒・伝説 往古、神崎字東宮台に鎮座していたが、宝暦十年(1760年)11月に現在地に遷座した。境内に建てられている記念碑文面には、この社は農業奨励・商売繁盛の神として名のある全国稲荷社の総本山である「伏見稲荷大社」より分霊を賜り、この地に遷座された寛政年間(1790年代)に贈位を出願し、正一位稲荷大明神と階位の許しを賜った。

平成9年12月に地域環境の急激な整備発展に先駆けて再建された。なお、旧神社の建物は、左側に保存されている。



平成9年に新築された拝殿

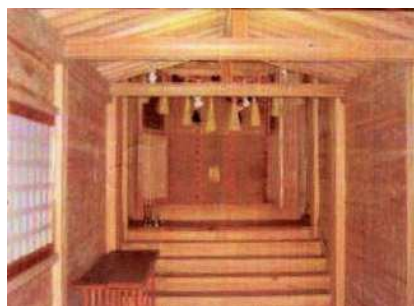
例祭・神事 初午 (春マチ) 2月の初午の日に、お稲荷様に行き、豊作を祈り、オコワを食べる。元旦から初午までの日が早いと、火が早いと言ひ伝えて、火事には気を付けるといふ。

秋季例祭 (秋マチ) 10月17日に神前に米、野菜、お神酒、魚等を供え、その年の豊作に感謝を捧げ、併せて家内安全・無病息災を願う。

大山阿夫利神社代参のくじ引き神事



銅版葺き入母屋造の本殿の背面



拝殿より本殿内部を仰ぐ



神崎川を渡り稲荷神社へ渡る



旧の稲荷神社の社と鳥居



旧社前の狛犬の石像



旧矢代前にある石灯籠



法光山 真浄寺 (ほうこうさん しんじょうじ) 日蓮宗  
 所在地 市原市神崎4 4 4 番地  
 住職 田中 妙定  
 創建時期 不明  
 本尊 不詳  
 説明 不詳



本堂正面



正面参道から本堂を望む



鐘楼と釣り鐘



歴代住職の刻まれた墓誌

喜多 (きた) 神社・仏閣 喜多神社 壽福寺 (顕本法華宗)  
 文化財 壽福寺所有 木造如来坐像0

北とも書く。江戸期は喜多村。

地名の由来は、もとは犬成村の枝郷であった事から、親村から見て北にあるという意味。

#### 喜多神社

所在地 市原市喜多151番地  
 祭神 大山咋命 (おおやまぐいのみこと)  
 官司 小田 千里

由緒・伝説 社伝によると、元和5年10月25日、時の領主片山弥九郎の信仰厚く、初めて当地に喜多神社を祭祀するという。靈驗は極めて顕著で、遠近の老若男女競って信仰した。大正2年10月に社殿改築され、昭和57年4月に社殿屋根葺き替え工事を完了した。

#### 例祭・神事

- ・オビシャ 1月15日 氏子一同参拝し、神主の祝詞奏上の後、氏子代表による玉串奉奠が行われ、五穀豊穰・厄除け・無病息災・家内安全を祈念する。
- ・春季例祭 (春マチ) 4月3日 田畑の耕作・種まきを前にして、その年の五穀豊穰と家内安全・無病息災を祈念する。
- ・祇園祭・天王マチ 7月7日
- ・秋季例祭 (秋マチ) 10月17日 神前に米、野菜、お餅、お神酒、魚等を供え、その年の豊作に感謝し、併せて、家内安全・無病息災を祈る。当日は、氏子総代・町会役員・当番の者が集まり一連の祭儀の後、祝宴をする。
- ・神輿担ぎ 最近復活され、秋祭りの時に、朝早くから神輿を担ぎ、神社を出発し区内を練り歩く。



瓦葺入母屋造の拝殿正面



本殿は瓦葺入母屋造



大正5年奉納の狛犬左吽像、右阿像。みかん彫り。手前に見えるのは石灯籠ですが、珍しく火袋が付いていない。明治40年に奉納。



ご神体が鎮座している逗子



平成18年奉納の鳥居



出来たばかりで、漆の臭いが漂うの神輿

### 壽福寺 (顕本法華宗)

所在地 市原市喜多51番地5

住職 吉田 文雄

創建時期 平安期頃と思われる

本尊 木造如来坐像 (市原市指定文化財)

説明 創建当初は真言宗のお寺でしたが、正徳5年(1292年)の土気城城主の酒井定隆の布令により、日蓮宗に改宗を余儀なくされた。これがいわゆる「七里法華」と言われています。

その後現在の「顕本法華宗」となった。



改築された本堂



市指定文化財の如来坐像の説明看板



本堂手前左手にある鐘楼



歴代住職の埋葬されている墓地

### 久々津 (くくつ) 神社・仏閣 諏訪神社・本照寺 (顕本法華宗)

江戸期は久々津村。久踏村とも書く。

地名の由来は、「くぐ(屈)・つ(津)」で丘陵の内側の低湿地で降雨時に水の溜まりやすい場所と言う意味。

大厩の先に菊間があり、古代は「くくま」と称していたことから、当地と何らかの関係があったとも思われる。



## 諏訪神社

所在地 市原市久々津552番地

神主 小田千里

創建時期 不明

祭神 建御名方神（たけみなかたのかみ）・  
下照姫命（したてるひめのみこと）

由緒・伝来 信州諏訪大社より勧請したと伝えられるが、  
年代などは不明。

例祭・神事 秋季例祭 10月13日 神前に米、野菜、お神酒、魚類を供え、その年の豊作に感謝を捧げ  
併せて、家内安全・無病息災を祈念する。神主の祝詞奏上に続いて、氏子代表が玉串奉奠を行  
い終了する。



鳥居から拝殿を望む。拝殿の建物が本殿を包み込んでいる



境内左鳥居横の天神神社



文政13年造の妙正大明神



神殿内に安置された狛犬阿吽像



文政7年奉納の手水石

## 勝珠山 本照寺 (しょうじゅさんほんしょうじ) 顕本法華宗

所在地 市原市久々津549番地1

住職 丹野 章二

創建時期 不明

本尊 不詳

由緒・伝説 不詳



本堂の建物。左右に石灯籠がある



手水石と建屋

幹廻り 6 m以上の大銀杏の樹

天保3年に建てられた記念碑

古都辺 (こつべ) 神社・仏閣 古都辺神社・行福寺 (日蓮宗)

江戸期は古都辺村。

地名の由来は、平将門が大字奈良の地に居館し大和の南部に擬して当地を奈良と称したが、自身は相馬に移った後も妃や妾を住ませたので、都の長残り、古い都の付近にあるという意味で「古都辺」と付けられたという。「きつ(くさ)・ベ(辺)・」の転訛で、山が崩れた地の周辺という意味。

古都辺神社

所在地 市原市古都辺285番地  
 祭神 大山咩命 (おおやまぐいのみこと)  
 宮司 小田 千里  
 創建時期 不明ですが、平安期と思われる  
 由緒・伝説 言い伝えによると、往時、平将門が当地周辺を奈良の都に擬して造り、その後に下総国に移ったという。古き都の辺りということで村名を「古都辺」と称したと言われている。



鳥居と拝殿・本殿が一体となっている

明和2年(1765年)2月に氏子の寄進により社殿を改築されている。

例祭・神事

元旦  
 初寄り合い 1月15日  
 春 祈祷 3月第一日曜日  
 宮薙ぎ 7月第一日曜日  
 秋まつり 10月13日



神前と大胡と賽銭箱・左奥に山王大権現の額



一乗山 行福寺 (いちじょうさん ぎょうふくじ) (日蓮宗)

所在地 市原市古都辺164番地  
創建年代 天文3年(1534年)開山日什は明徳3年(1392年)  
住職 山本 典征 ※ 日蓮宗千葉県西部青年会会長を兼務  
本尊 不詳  
由緒・伝説 天文3年に創立。開山は明徳3年2月28日。開基は天文3年5月15日となる。  
境内の大銀杏は圧巻です。当時院の住職は、古くより伝来し、地域を守護する「奈良の大仏」を管理している。



本堂の全景



本堂の内部を望む

金剛地 (こんごうじ) 神社・仏閣 熊野神社 ・本宮寺 (顕本法華宗)・金剛地城

江戸期は金剛地村。地内に在る本宮寺の鐘名には「金剛寺」とあることから、元は「寺」であったのが「地」に変化した。承平年間(931=938年)には、平良兼の所領であった。

地名の由来は、康保3年(966年)に慈恵大師が紀伊国熊野の参詣した際、その神が10万の金剛童子に姿を変えて現れ、この地を指示したことにちなむという説と、土気城主酒井氏が金剛地の熊野神社を土気城の鬼門除けとするために、紀州の熊野神社よりご神体を迎えたが、この時7歳の童子を金剛童子にしたたて迎えたことにちなむという説がある。地名も「金剛子」から「金剛寺」となり、「金剛地」に変化したという。

「ほる(古い)・うと(崩壊地形)・うし(憂し)」の転訛で、地滑り崩壊地を指したもの。

熊野神社 (くまん様)

所在地 市原市金剛地208番地(字宮の森)  
祭神 伊邪那美命(いざなみのみこと)・速玉男命(はやたまのおのみこと)・泉津事解男命(よもつことさかのおにみこと)  
創建時期 正暦3年(992年)に社殿を建立、熊野大権現を勧請した。  
由緒・伝説 紀州熊野村出身の瀧本権之助信広が当地に住み、夢に氏神崇拝をさとされ、第66代一条院



熊野神社の拝殿

正暦3年（992年）に社殿を建立し、熊野大権現を勧請した。社記によると「ある夜、辛勞を思案し枕を傾けて寝たり。その時、百歳計るなる翁三人来たり給う。何れも白地の直垂れを着一人は銀の杖、一人は手に宝珠を、一人は傘を持ち給う。信広に向かって曰く、汝本国は紀伊氏神は熊野権現なり」と伝えた。その後、土気領主の信仰厚く、天正14年（1586年）に社殿を改築。近郊5か村の鎮守として崇敬されたいる。

例祭・神事

元旦

オビシャ・的あて神事 2月11日 成人式を迎えた男子が弓を引く。年は女子も参加している。

- 春祭り 4月 3日
- 夏越しのおお祓い 6月28日
- 宮薙ぎ 7月中旬
- 秋祭り 10月13日
- 神様の御立 10月29日
- 七五三 11月15日
- 新嘗祭 11月23日
- 神様のお帰り 11月29日
- 年越しの大祓い 12月29日



本殿は瓦葺入母屋造、拝殿は亜鉛版葺入母屋造



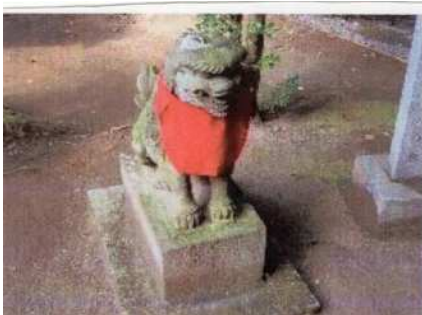
拝殿に、剣・鏡・勾玉が祀られる



末社。3祭神が祀られている。



享保年間に奉納された手水石



安永2年に奉納された狛犬



天照大神（左）と八坂神社の納められた祠



大鳥居と中央に掲げられている扁額



市原市指定の大銀杏の樹



應時山 本宮寺 (おうときさん ほんぐうじ) (顕本法華宗)

所在地 市原市金剛地171番地

住職 佐藤 有亮

創建時期 不明

由緒・伝説 不詳



本宮寺の山門風景



本宮寺の本堂全景



本堂前の石灯籠

皇大神宮 (こうだいじんぐう) ※天照大皇神宮

所在地 市原市金剛地1128番地

祭神 天照皇大神

宮司 小田 千里

創建時期 不詳



参道の先にある鳥居と本殿



本殿南側にある祠



祠の中の石碑

金剛地城跡

所在地 市原市金剛地字陣場

築城主 多賀氏の陣所跡という説と本納城主黒熊大膳亮の出城の一つという説もある。

築城時期 長享年間と思われる

説明 金剛地城は、茂原市との境界付近にあり、比高20mほどの独立台地上にあつた。台地北側には本宮寺や熊野神社がある。土塁や空堀などが残っているとされているがはっきりしない。

陣場台という地名からすると、城というよりは陣所であり、合戦の際に一時的に陣取った場所とも思われる。そのために遺構などが見当たらないのもそのためか。

伝承によると、本納城の城主黒熊大膳亮と土気城の酒井氏とは敵対関係にあり、実際合戦も行われ、それに備えて築かれたものと思われる。

下野（しもの） 神社・仏閣 浅間神社・ 本泰寺（日蓮宗）

江戸期は下野村。年月は不明ですが、潤井戸村より分村した。

地名の由来は、大字奈良付近が古くは上野と呼ばれており、当地はこれに対応する地名として「下野」と言われたと伝えられる。また、中野という地名もある。

浅間神社（せんげんじんじゃ）

所在地 市原市下野248番地

祭神 木花佐久夜毘売命（このはなさくやひめのみこと）

宮司 小田 千里

由緒・伝説 元和2年（1616年）3月、領主永井尚政転封の際に浅間神社創建された。

例祭・神事 ・春季例祭（春マチ）4月3日に田畑の耕作、種まきを前にしてその年の五穀豊穰を祈願し、併せて、家内安全・無病息災を祈念し、神官の祝詞奏上、氏子代表による玉串奉奠を行う。

・宮薙ぎ 7月15日 浅間神社大祭 町会住民全員が集い、神社の一斉の清掃を行い、終わってからお祝いをする。なお、子育ての神様なので、昔は、1歳、3歳、5歳、7歳の子供たちもお参りをしていたと伝えられている。

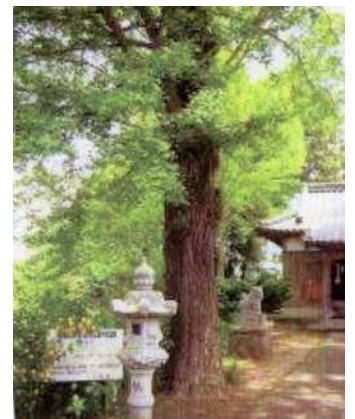
・秋季例祭（秋マチ）10月13日に秋の収穫した米や野菜など、自然の恵みの諸々の幸を神前に供え、その年の豊年に感謝を捧げ、併せて、家内安全、無病息災を願う。神官の祝詞奏上に続いて、氏子代表による玉串奉奠を行う。



瓦葺流造の本殿と手前の狛犬



参道に立つ鳥居、奥に本殿



神木の銀杏の木と石灯籠



天神社の祠



天保14年に奉納された手水石

光昌山 法泰寺（こうしょうざん ほうたいじ）（日蓮宗）

所在地 市原市下野 440 番地

創建時期 永正年間に日在上人により開基

本尊 不詳

住職 辻 常慶





銅板葺きの本泰寺本堂



本堂正面入り口の扁額



最奉奉納された鐘楼



手水石と建屋

瀬又 (せまた) 神社・仏閣・文化財・史跡 八幡神社・正連寺(日蓮宗)・瀬又城址

奈良期のものと思われる土器の裏底墨書銘に「背俣」と見える文字が記されている。江戸期は瀬又村。

【元禄郷帳】【遠保郷帳】では、志藤の冠称。志藤七ヶ郷の一つ。志藤は中世の市東由来する地名。

地名の由来は、「せま(狭)・た(処)」で、丘陵の間に入り込んだ狭い谷地を指したものの。

八幡神社 (はちまんじんじゃ)

所在地 市原市瀬又89番地

祭神 誉田別命(ほんだわけのみこと)

宮司 小田 千里

創建時期 不明

由緒・伝説 創建時期は不明ですが、旧地頭の池田吉重郎、藤原長置の信仰厚く社領を寄進され、のちに天保5年9月(1834年)に社殿を再建した。参道整備、建屋の修復、境内の灯笼などの配置換え事業を行った。

昭和31年、昭和48年、平成3年の大規模な改修を行い保全されている。

例祭・神事 オビシャ 1月15日

春祭り 4月3日

秋祭り 10月13日

七五三 12月第2日曜日



左奥の本殿と右手前の拝殿



幣殿内の鏡と幣束が飾られている





急な階段の先に本殿と拝殿がある



昭和44年奉納の第一の鳥居



享保20年奉納の第二の鳥居



階段左側の狛犬と右側の狛犬。天保15年に奉納されている



文政13年に奉納された石灯籠

法性山 正連寺 (ほうしょうさんしょうれんじ) 日蓮宗

所在地 市原市瀬又134番地1

住職 大塩 孝信

創建時期 慶長3年(1598年)4月の創立。市原市中野の光徳寺の末寺として建てられた。江戸時代より、寺子屋を開校し、地域の若者たちの勉学に門戸を開いた。その後、明治6年に学生制度発布により、第一大学区第二中学区に属し、瀬又小学校が開校した。



とても長い階段。階段数は？



正連寺本堂全景



本堂を左側より撮影



入口にある案内看板



## 瀬又城址

所在地 市原市瀬又字イノシシの台

築城時期 不明

築城主 不明

瀬又城は、猪ノ台と呼ばれる台地上にあったと言われていたのですが、この地は現在工業団地になってしまい、造成のため遺構等はなくなっている。

高倉 (たかくら) 神社・仏閣・史跡 白山神社 ・高福寺(顕本法華宗)・高倉城跡

古くは御丈倉と称したという。江戸期は高倉村。志藤七ヶ郷の一つ。

地名の由来は、天正年間(1573年~1592年)に北条氏の家臣・高田氏の倉庫があったことによる。

「み(接続詞)・たき(滝)・くら(挾)」で、崩れやすい崖・急傾斜地・浸食地の意味。

## 白山神社 (はくさんじんじゃ)

所在地 市原市高倉289番地(字溝谷)

祭神 伊邪那岐命(いざなぎのみこと)・

菊理媛神(ククリヒメノカミ)

宮司 小田 千里

由緒・伝説 社記によると、元社地を御竹倉(ミタケクラ)と称した頃より社殿が創立されていた。

付近住民の信徒が多く、後、文明4年(1469年)

の頃から全戸が氏子となった。

例祭・神事 元旦

オビシャ 1月15日前後の日曜日

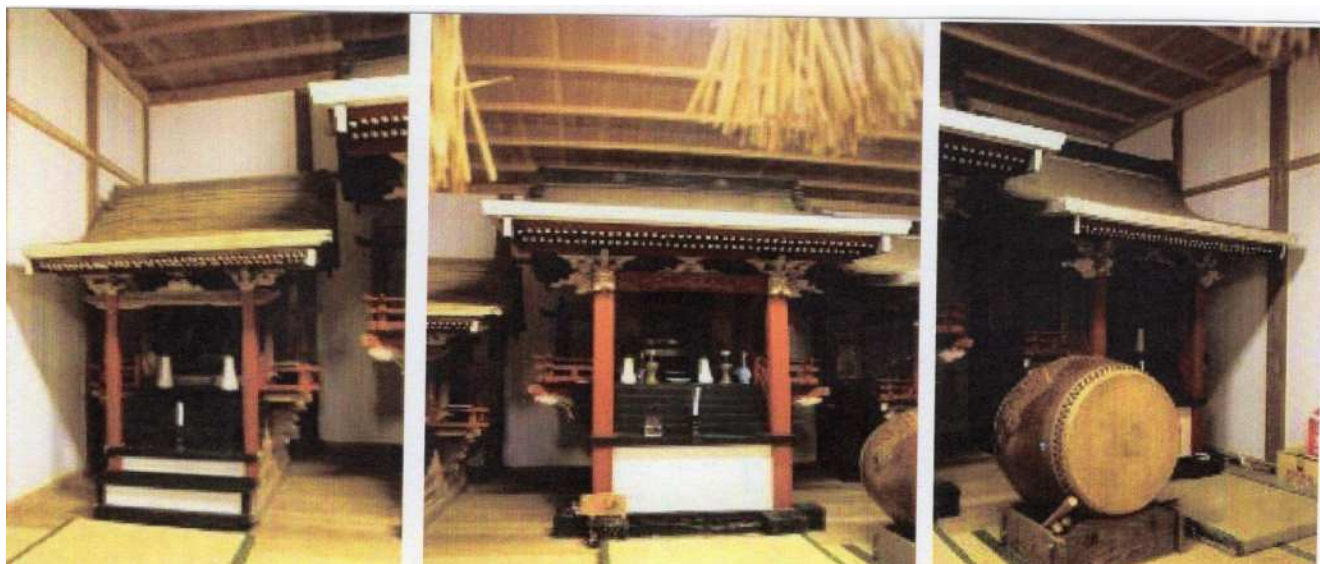
春祭り 4月3日

秋祭り 10月13日

紐解き 11月



白山神社の本殿。内部に三社が納められている



社殿内の天満宮

白山神社本殿

浅間神社



社殿内の鴨居に朱塗りの鳥居が



文化8年に奉納された手水石

**高福寺 (こうふくじ) 顕本法華宗**

所在地 市原市高倉347番地

住職 吉田 文雄

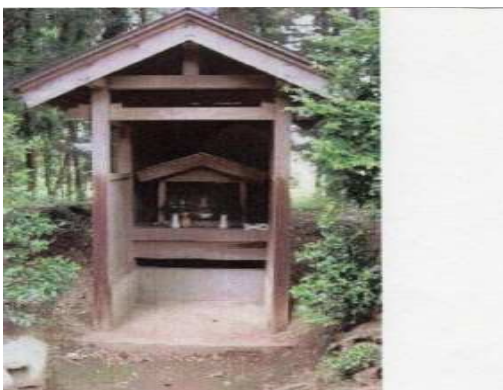
創建時期 不明

本尊 不詳

由緒・伝説 不詳



高福寺の本堂



白山神社の祠がなぜかここに



力石がここにありますが

**高倉城 (たかくらじょう)**

所在地 市原市高倉

築城時期 不明

築城主 不明

説明 高倉城は、高倉地区の中心近くで高田城から800mほど東南で、現在の白山神社のある高台で、下の道路から比高10mほどのところにあったが、はっきりとした遺構を見ることができない。



高倉城跡に築かれている白山神社

**高田 (たかだ) 神社・仏閣 ・文化財・城址 日枝神社・高田城址**

江戸期は高田村。志藤七ヶ郷の一つ。元禄11年(1698男)には東村を2村として上高田村・下高田村とも称していた。



地名の由来は、北条氏の家臣・高田直勝が領主として砦を構えていたことに由来する。また、文明以前（1469年～1487年）は御竹倉と称していた。「たき（滝）・だ（処）」の転訛で、地滑りなどを起こしやすい処という要注意地名。

**日枝神社（ひえじんじゃ）**

- 所在地 市原市高田186番地（字オキハタケ）
- 祭神 大山咩命（おおやまぐいのみこと）
- 宮司 小田 千里
- 由緒・伝説 創建年代は不明ですが、大永年間（1521年頃）に、領主 城左兵衛の信仰厚く、社殿を再建する。
- 例祭・神事 元旦
  - オビシャ 1月第2日曜日
  - 春祭り 4月8日
  - 秋祭り 10月13日



鳥居と参道、奥に本殿が見える



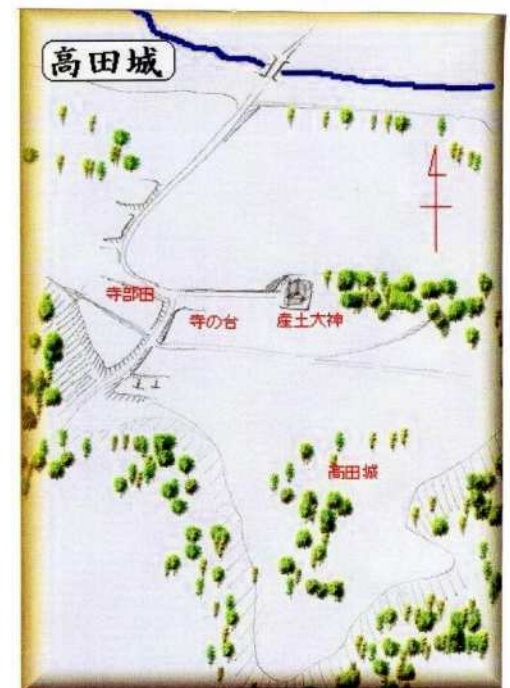
本殿と拝殿を兼ねた社殿



本殿、拝殿の内部

**高田城址**

- 所在地 市原市高田字南沢
- 築城主 高田 直勝（北条氏の家臣）
- 築城時期 戦国期末期
- 説明 高田城については、地元でも「高田城はあった」ということは伝承されていますが、実際には遺構などは発見できない。しかし、天正期末期までは存続されていたと思われる。高田地区の中央南西部には広大な大地となっており、その中央北側辺りに産土大神が祀られている。この辺りを「寺の台」といい、かつては寺院があった処で、産土大神の神社から南側の一段高くなっている辺りが城址ではないかと思われます。しかしかなり古い時期に遺構などは破壊されており遺構は残っていない。現在は、畑になっている。市原郡誌によると、高田城を築いたのは北条氏の家臣で「高田直勝」で戦国時代末期と思われる。そののちに、秀吉の小田原城攻めの際には、豊臣方の真田氏らと戦い、城は落城、炎上し城主も自刃したと記されている。





高田城に続く部分の土手も遺構か



高田城跡と思われる台地。今は畑地

滝口 (たきぐち) 神社・仏閣 ・文化財 諏訪神社 ・本妙寺 (顕本法華宗)

江戸期は滝ノ口村。

地名の由来は、「たき (崖)・の (接続詞)・くち (入口)」の転訛で、崖地・急傾斜地・浸食地の入口という意味。または、水の溢れる処の入口という意味か。

諏訪神社 (すわじんじゃ)

所在地 市原市滝口57番地

祭神 建御名方神 (たけみなたかたのかみ)

宮司 小田 千里

由緒・伝説 当地は山岳地帯で、信州諏訪を偲び、  
諏訪大社より御分霊を勧請された。

例祭・神事 ・オビシヤ 1月15日、当番家に榊を立て注連縄を張り、神社に参拝しお神酒を頂く。  
・秋季例祭 10月18日、毎年、幣束を取り換える。この神事は、氏子総代の川島家でお祓いの後、神社に奉納される。この時の関係者の服装は、マスクをして黒服を着て白いネクタイをする。神殿に田畑で取れた米、野菜、その他海・山の幸を供え、その年の豊作に感謝し、併せて家内安全、無病息災を願う。神前にて神主の祝詞奏上、続いて、氏子総代による玉ぐし奉奠を行う。

銅板葺向拝大唐破風  
入母屋造りの拝殿



銅板葺き1間流造脇障子付きの本殿



昭和56年に奉納された鳥居





右から熊野大権現・南無天満宮・子安神社の祠



文久2年(1862年)奉納の手水石

龍口山 本妙寺 (たきぐちさん ほんみょうじ) 顕本法華宗

所在地 市原市滝口122番地  
 創建時期 不明  
 住職 吉田 広心  
 本尊 不詳  
 由緒・伝説 不詳



本妙寺の本堂



境内のお題目を記した石碑

中野 (なかの) 神社・仏閣・文化財・城址 城山神社・光徳寺(日蓮宗)・市東城跡

江戸期は中野村。【元禄郷帳】【天保郷帳】では志藤を冠称。志藤七ヶ郷の一つ。古くは大字奈良を上野郷と呼んだことから「中野」という名が付いたといわれている。また俗称を「中村」と呼んでいる。

白山神社 (はくさんじんじゃ)

所在地 市原市中野208番地(字久保の臺)  
 創建時期 創建年代不詳ですが、寛政年間(1789年)以後の創建という。  
 古来領主の進行、また地区民の崇敬深く現在に至る。平成9年に大規模な再建事業を行う。

例祭・神事 元旦  
 オビシャ 2月  
 秋祭り 10月13日  
 七五三 12月



平成9年に大改修された本殿



奥は本殿・手前拝殿。屋根は瓦葺き



拝殿内部。鏡が祀られる



平成元年に奉納された鳥居





境内に祀られる日宮神社、内部に神像が祀られる



元治年間（1864年）に奉納の手水石

経王山 光徳寺 (けいおうざん こうとくじ) (日蓮宗)

所在地 市原市中野 123 番地

創建時期 室町期の寛政元年（1460年） 妙高院 日意上人が開祖

住職 小西 法緑

本尊 不詳

由緒・伝説 寛政元年（1460年）の松戸市にある日蓮宗本山平賀 本土寺第9世日意が隠棲し創設。市原城主原信濃守、岩富城主原左衛門尉の外護により堂宇を建立。全盛期には、本堂・客殿・仁王門・山門・鐘楼・七面倒・鬼子母神堂等の伽藍を構え、近村に10支院を有した。

明治15年5月東国吉小学校（妙照寺内）・瀬又小学校（正連寺内）・永吉小学校（永久寺内）の3校が合併され、当山光徳寺を校舎として「三成小学校」と改名し、開校した。中世期には、中野城（別名市東城）として、昔の地域分類である五畿内七道制という東海道の上総にあった。城郭の形式については資料が残っていませんが、遺構として土塁などが残っています。

境内には、熊本城主の加藤清正が江戸での戦いに関東に出向いた時に、光徳寺にも寄り、その記念の碑が残されている。

また、境内には五百羅漢が祀られており、まさに圧巻です。



右側より本堂を写す



室町時代に建てられた山門



平成14年に建設された五百羅漢



阿吽像が出迎えてくれる中門



中門の収められている木造



加藤清正公来訪記念碑



市東城 (中野城)

所在地 市原市中野

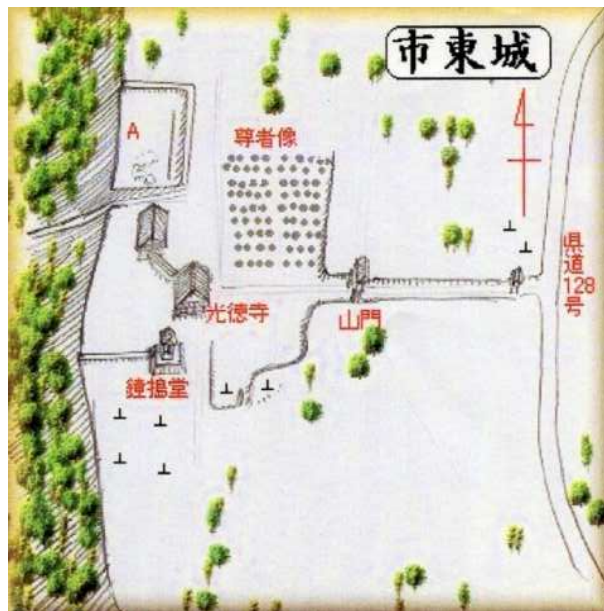
築城時期 戦国期と思われます

築城主 土気城主の酒井氏か、志藤郷の豪族の城とも  
思われる。

説明 市東城は、中野の高台にあった。現在は光徳寺の敷地になっている所が城址と思われる。光徳寺の入り口の案内版には「光徳寺 市東城跡」などと記載されている。鐘樓の建つ所は高さ3mほどの方形の土壇となっていますが、これはかつて櫓台の跡と言われています。背後には土塁がずっと続き、その下には腰曲輪があり、急な崖になっている。他に遺構は見られませんが、この規模からすると、台地上の居館だったと思われる。

土気の酒井氏は、もともとは中野城にいたと言われています。この中野城は、千葉市中野町の中野城であるという説がありますが、酒井氏が居た中野とは市原市の中野であるという説もある。もしそれが真実であるならば、市東城がその城館ではないかと思われる。

ところで、光徳寺には数百体の羅漢像が並べられています。この羅漢像は表情がどれ一つ同じものではなく、この尊者像を見に来るだけでも価値はある。



Aの所に立っている鐘樓は櫓台跡



境内いっばいに並べられた羅漢像群

奈良 (なら) 神社・仏閣・文化財 八幡神社・本泉寺 奈良の大仏

江戸期は奈良村。犬成村枝郷。住吉上野郷と称して大椎城・平良兼の所領であった後に平忠常も住んだ。

地名の由来は、上野郷と称されていたが、平将門が下総国相馬（現在の茨城県猿島地区）を平安京になぞえ南にある地を奈良になぞえ改称したと伝えられている。「奈良の大仏」が鎮座するが、最初に建立した仏像は将門が建立したものとされている。

※ 奈良の大仏は、現在古都辺の行福寺で管理されています。

八幡神社 (はちまんじんじゃ)

所在地 市原市奈良109番地(字中臺)

祭神 誉田別命 (ほんだわけのみこと)



銅板葺き春日造りの本殿の社

宮司 小田 千里  
 創建時期 平安期と思われる  
 由緒・伝説 創建年代は不詳ですが、往時、平将門がこの地を大和国奈良に擬して、街造りをしたという伝承がある。社殿は寛永年間（1624年頃）に2度建て替えが行われた。近くに奈良の大仏が鎮座する。

例祭・神事 元旦  
 オビシャ 3月1日  
 春祭り 4月16日  
 秋祭り 10月13日



享和年間（1802年）  
奉納の手水石



本殿内部の様子。脇障子に彫刻あり



平成13年に奉納された石灯籠

本泉寺 (ほんせんじ) (日蓮宗)  
 所在地 市原市奈良184番地  
 創建時期 平安期と思われる  
 住職 山本 典征  
 本尊 不詳  
 由緒・伝説 不詳



本泉寺の本堂。管理は古都辺の行福寺住職が兼務



参道入り口にある石碑



市の指定文化財シイ巨木群の看板と境内の6本の巨木の一部



永吉 (ながよし) 神社・仏閣・文化財 平野神社・永久寺 (日蓮宗)  
 江戸期は永吉村。【元禄郷帳】【天保郷帳】では、志藤七ヶ郷の一つ。平将門は始め上総国人見山に住し次に菊間台に館を築いた。字ヨシノキ台が跡地と伝わっている。将門はのちに、長柄郡上野へ移ったので、上野



次郎と称した。そののちに下総国相馬郡に移ったという。

平野神社 (ひらのじんじゃ)

所在地 市原市永吉 115 番地 (字平野)

祭神 仁徳天皇 (にんとくてんのう)・  
大山咩命 (おおやまぐいのみこと)

宮司 小田 千里

創建時期 創立年代は不明ですが、延宝 4 年 (1676 年) の棟札がある。

由緒・伝説 平将門がこの地に来て滞在したところを「平親王野」あるいは「将門山」いまは呼ばれている。

例祭・神事

元旦

春祭り 4 月

秋祭り 10 月 13 日

七五三 12 月

三夜様



銅葺き入母屋造り拝殿



拝殿 (左) 幣殿 (中央) 本殿 (右)



ケヤキづくりの鳥居。



宝暦 4 年に奉納された手水石



将門山とよばれ、桔梗塚に生えた桔梗は花をつけないという伝説がある。桔梗は将門の側室、俵藤太秀郷の妹と言われている。



昭和 18 年に奉納された狛犬。右は咩像、左阿像

平里山 永久寺 (ひらのさん えいきゅうじ)

所在地 市原市永吉 69 番地

住職 窪塚 了明

創建時期 寛永元年 (1624 年) に創立

開山 日円上人

本尊 不詳



正面入り口から本堂を望む



本堂左から写す。



永久寺本堂正面。左に石碑

葉木 (はぎ) 神社・仏閣・文化財・城址 妙見神社・地蔵院 (真義真言宗)・葉木城跡

葉地 (はじ) ともいう。江戸期は葉木村。

地名の由来は、「はぎ(剥ぎ)」で、川の流れにより崖が剥ぎ取られる事を指したものの。

妙見神社 (みょうけんじんじゃ) (葉木神社)

所在地 市原市葉木 658 番地

祭神 天之御中主命 (あめのみなかぬしのみこと)

宮司 小田 千里

創建時期 境内の石碑の中に、天明元年 (1781 年) のものがあり、それ以前のものと思われる。

由緒・伝説 庶民の信仰厚く、奉納品等も多数あったが、明治元年 4 月の火災で、本殿・拝殿・神輿殿をはじめ社記などすべてを焼失したため、由緒や伝説も不明。

例祭・神事・オビシャ 1 月 22 日に神主が祝詞奏上し、氏子代表による玉串奉奠が行われたのち、当日参加した人々で、境内の拝殿前から石段手前までの 5~6 メートルの距離に的 (中央に米、その周りに麦、粟、稗、豆の文字を書いた奉書紙を貼った竹組のもの) に、各自多めに用意してきた矢を射て、五穀豊穡を祈願する。神官が第一矢を射る。その後、氏子代表、続いて参加者の人々が射る。用いた矢は持ち帰り近所に配り、神棚に祀る。

- ・葉木ばやし 昭和 26 年~48 年まで続いた。神輿を担ぎ、各家を周り、酒色の接待を受けて大変賑やかでした。
- ・春祈祷 2 月 8 日 春の訪れとともに、作物の豊作を祈り、疫が他から入ってくるのを断つ為の悪病除けて祈祷をし、村境に辻切りを立て、幣でお祓いをする。
- ・子安様 4 月 3 日 骨休めを行った。
- ・秋季例祭 10 月 17 日 役員、当番が参拝し神主が祝詞奏上し、氏子代表が玉串奉奠して、その年の豊作に感謝し、併せて、家内安全・無病息災を祈念する。



妙見神社の本殿と石灯籠



境内にある子安神社の小社



境内に祀られる社の祠





妙見神社と子安神社の鳥居



天満宮に奉納された子供たちが  
願いを書いた白布



葉木集荷場に保存されている神輿

北斗山 地藏院 妙見寺 (ほくとさん じぞういん みょうけんじ) 真義真言宗

所在地 市原市葉木 659 番地

創建時期 不明

住職 平出 淳道

由緒・伝説 不明



参道の石段を上ると本堂が



地藏院の本堂



北斗山地蔵院の案内石碑

葉木城 (はぎじょう)

所在地 市原市葉木字舞台山

築城時期 戦国期末期

築城主 犬成城主酒井氏とも考えられるが、不明。

説明 葉木地区の妙見寺と妙見神社のある背後の台地が葉木城跡です。台地上には、20m×50mほどの平場が広がっている。その西側の先にはAの土塁があり、城址と思われます。しかし、土塁の外側には堀が掘られていないので、不自然な感じがする。土塁の上の幅も結構あり、角の部分は櫓台と思われる。南西の角の隅には、直径3mほどの円形の窪みがあり、のろし台とも思われる。

台地上には、古墳が点在しており、かつては高地性の集落が営まれていたと思われます。むしろ、中世の城というよりは、もっと古い時代の城跡と思われる。この地の伝承では、「ここに城があった」という。周囲は切り立った地形で、城址らしさは感じる場所である。また、妙見社の存在も千葉一族に関連した城館であったと思われる。







南方から見た葉木城のある台地



Aの土塁を外側から見たところ



妙見社の鳥居。右には妙見寺がある

番場 (ばんば) 神社・仏閣・文化財 番場神社 (山王大権現)

江戸期は番場村。志藤七ヶ郷の一つ。

地名の由来は、重要な飼料の供給である草刈り場があり、江戸期にはこの草地をめぐる争いの番をする番小屋が建てられていたことによるという。

伝承では、「番場の無駄太鼓」という昔話があり、殿様の病氣回復を祈り、祈祷太鼓をたたいたが、殿様が亡くなった後もたたき続けたので、それで無駄太鼓といった。番場には、太鼓の名手が居たらしく、今も太鼓の名手がいるという。

番場神社 (ばんばじんじゃ)

所在地 市原市番場 106 番地 (字宮)

された石碑が本殿左側にあるので、それ以前の創建と思われる

由緒・伝説 近江大津日吉神社より勧請。地区民の崇敬厚く昭和 61 年屋根の瓦を葺き替えた。鳥居を平成 7 年に建て替え奉納した。

例祭・神事 元旦

春祭り 4 月 8 日

神送り 9 月 30 日

秋祭り 10 月 13 日



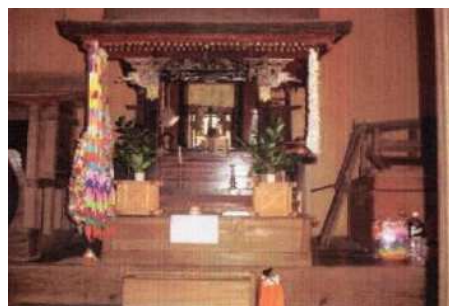
瓦葺き入母屋造りの本殿



瓦葺き寄棟づくりの拝殿



平成 7 年に奉納された鳥居



担がなくなった神輿を内本殿に



本殿右側に立つ子安神社





天保 12 年の稲荷大明神祠



安政 4 年の明王大明神祠



天明 9 年の一千部山王大権

※ 寺院について

番場には、お寺が 2 か所あったとのこと。  
 ミネノ寺 (尼寺) は、戦後の農地解放で土地が持てなくなり、住職が自殺して廃寺になった。  
 もう一つの寺は、火災によって焼失し廃寺となっており、現在公民館が建っています。

東国吉 (ひがしくによし) 神社・仏閣・文化財 八幡神社・妙照寺 (顕本法華宗)  
 明治 12 年 (1879 年) に起立。江戸期は国吉村。承平年間 (931 年~938 年) は平良兼の所領で、のちに平忠常の采地となる。当村の南西にある同じ市原郡の国吉村と区別するために、東を冠称した。  
 地名の由来は、「くに (くき・ぬぎの転嫁)・あし (崩壊地形)」の転嫁で、「くき (山頂) ぐぎ (ほうかい)」で山頂が崩れた地という意味。

八幡神社 (はちまんじんじゃ)  
 所在地 市原市東国吉 303 番地 (字宮ノ越)  
 祭神 誉田別命 (ほんだわけのみこと)  
 宮司 小田 千里  
 創建時期 不明  
 由緒・伝説 当地は元 高田森二氏の領地だったが、維新後 鶴舞藩井上河内守正直氏の所領となり、のち明治 2 年領地 6 万石のうち大社を選択し、郷社に昇格する。明治 6 年、廃藩置県により鶴舞県となったが、社地はそのままの状態にとどまる。社地は山岳に位置し、鳥居より社殿まで延長 136 間 (245m) あり、荘厳です。階段は 144 段あり、急峻です。  
 例祭・神事 元旦  
 オビシャ 1 月 3 日  
 春祭り 4 月 3 日  
 宮薙ぎ 4 月 7 月 10 月  
 注連縄飾り 4 月 10 月 12 月  
 秋祭り 10 月 13 日  
 七五三 12 月第 1 日曜日



八幡神社の鳥居から本殿まで 136 間 階段は 144 段もある急峻な坂道です



拝殿は瓦葺き入母屋造り、奥に本殿



拝殿の入り口の八幡神社額



本殿は亜鉛版葺き流造り



拝殿左手前にある手水石

妙照寺 (みょうしょうじ) 顕本法華宗

所在地 市原市東国吉325番地

創建時期 永禄年間 日光上人が開祖

住職 吉田 広心

本尊 不詳

由緒・伝説 不詳



妙照寺の本堂



本堂の入り口。左右に水桶がある



境内にある鐘楼ですが、釣鐘は下がっていない



## 奈良の大仏（市原市指定文化財）

所在地 市原市奈良字大仏台 269 番地 2

千葉県にある「ならの大仏」は市原市奈良字大仏台の建立された釈迦如来像です。

歴史 初代は平安時代の承平元年（931年）に建立されたと伝えられている。下総付近で朝廷に対して反乱を起こした平将門が、新皇を名乗りこの地の北方に京に模した自らの都を構えた際に、京の南に奈良の東大寺の大仏を模して仏像を建立したもので、当時は銅製だったと言われる。

江戸時代中期の儒学者中村国香（1710年～1769年）が著した「房総志料」によると、当時の奈良村には銅製の蘆舎那の露仏が存在していた。その後何度か作り直され、現在のものは文化元年（1804年）に建立された等身大（像高約1,7m）の石製立像です。



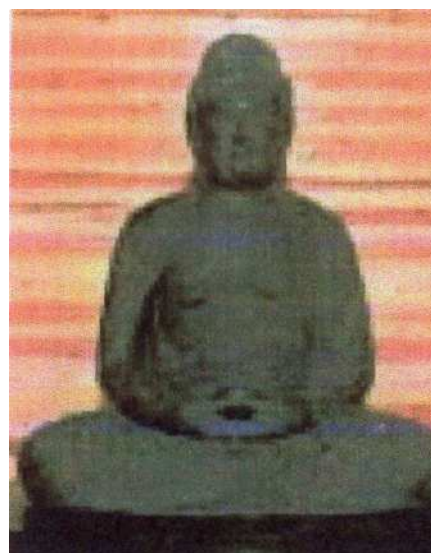
## 木造薬師如来坐像（市原市指定文化財）

所在地 市原市大作 242 番地

所有者 法行寺所有

種類 彫刻

説明 座高90, 1cmのヒノキ材の一木割割矧造で彫眼です。豊かな肉付き、浅く彫り出した衣紋の細やかさなどに平安時代後期の作風が見られ当地における定朝様式の本格作と言えます。元来は阿弥陀如来であったとも推定されますが今日薬師如来として信仰されていることから、両腕と薬臺を復元したものです。





銅像阿弥陀如来立像 (市原市指定文化財)

- 所在地 市原市櫃挾  
所有者 非公開  
種類 彫刻  
説明 像高は45, 8cmで鑄造製、肉髻珠は水晶製。右手首を亡失していますが、左手が刀印を結ぶことから、本来は善光寺式阿弥陀三尊像の中尊として造られたことが分かる。像背面に文永十一年(1274年)「鎌倉新大佛住露侶寛口」が鎌倉大仏(現高德院)の勸進上人とされる「浄光上人」の菩薩を弔うために造立し<sup>46</sup>記されており、重要な歴史資料を提供しています。千葉県内における善光寺式阿弥陀三尊像の作例でも、古例に属する基準作です。



熊野神社の大銀杏 (市原市指定文化財)

- 所在地 市原市金剛地208番地  
所有者 熊野神社  
種類 天然記念物  
説明 夢の啓示により熊野の産神を祀り、産神の杖からこのイチヨウが育ったという言い伝えがある。根廻り7, 8m、目通し幹囲8, 8mで、目通の方が根回りより太くなっています。幹高は20m余りで、地上3mほどから幹が5本に分かれ、分岐した幹は全て約1mの太さがあります。気根の発達も良好で、乳不足の母親はその気根の下部を削りとり煎じて飲む風習がかつてあったと言われています。



奈良本泉寺のシイ巨木群 (市原市指定文化財)

- 所在地 市原市奈良184番地  
所有者 本泉寺  
種類 天然記念物  
説明 弘元元年(1555年)、日意上人開基と伝えられる本泉寺。計7本のシイ巨木群は、境内南道路際(6本)から隣接する民家の庭(一本)にかけ、約50mにわたり生えています。目通幹囲が6mを超える椎も含まれます。道路に面した斜面にはスダジイ林に特徴的な植物であるヤブコウジやテイカカズラなどが見られ、林床植物はタラノキやゲンノショウコなど50種を数えます。





本資料を作成するに当たり、参考資料として下記の資料を使用しました。

総の国 WEB・市原市にある寺院・神社一覧

いはらの指定文化財一覧

市津地区フォトギャラリー

ウィキペディア市原郡の地名の由来・

市原市宗教法人一覧

寺院マップ日蓮宗千葉県西部宗務所等

日本の城郭・城址（千葉県版）

歴史の旅人（市原市の文化財ガイド）

その他に、紹介した寺院や神社の関係者の協力を頂きました。

発行者 **上総の国市原の歴史を知る会**

（ふるさと市原をつなぐ連絡会会員）

住所 市原市 能満 1020 番地 1

連絡先 携帯 090-3545-1113